

臨床疫学研究実施のお知らせ

本診療所では、通常の診療に加えて、医学のさらなる発展を目指し、カルテ情報（医師の記録や採血・採尿データなど）をデータ化し分析する研究を行っております。

本研究の実施にあたっては、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針・文部科学省」に従い、研究計画書を作成し、日本疫学会の倫理委員会など外部の機関に審査を依頼し、医学の研究における倫理的配慮等について厳密な審査を受け承認されております。

研究を実施するにあたり、患者さんに追加の検査をお願いすることはありません。

現在進行中の研究計画は以下の通りです。

いずれの場合も、検査結果を誰のものかわからないように匿名化して、データを分析する研究で、ひとりひとりの検査結果を取り上げて検討することはありません。また、分析の際には、患者さんの名前・住所・生年月日などは個人を特定できる情報は含まないデータベースを用います。よって、本研究により、患者さんの個人情報流出するということはありません。ご自分のデータを研究に使用して欲しくないとお考えになる方は、お手数ですが、診療所までお伝えくださいますようお願いいたします。なお、データの研究利用を拒否されても、診療の機会など、いかなる意味においても不利益をこうむることはありません。



<現在進行中の研究計画>

1. 在宅医療患者における尿カテーテル閉塞に関連する要因についての研究

在宅で過ごされている患者さんの中には、尿を排出するために、膀胱にカテーテルと呼ばれる管を常時留置されている方がおられます。そのような方の中には、カテーテルの閉塞をきたし、頻回な交換を余儀なくされる方もおられます。カテーテルの閉塞やカテーテルの頻繁な交換は、患者さんにとっては非常に不快を伴うものです。加えて、カテーテルの閉鎖により、膀胱炎・腎盂腎炎などの感染症を発症し、場合によっては敗血症になり死亡される方もおられます。このように、カテーテルの閉塞はできることならば減らしたいものなのですが、残念ながら、これまでの研究では、どのような状態・状況がカテーテルの

閉塞をより引き起こすのか、また、どうすれば閉塞が減らすことができるのか、について十分に明らかにされていません。そこで我々は、日々の診療データを解析し、どのような要因が閉塞につながるのかを明らかにし、それを減らすことができればと思い、研究を行っております。